

渡辺ハウジングOBの皆様と  
未来のお客様にお届けする

# やすらぎ通信

渡辺ハウジング  
03-3959-8743



春3月。  
今まで冬籠りをしていた生き物たちも暖かさにつられ一斉に土の中から顔をのぞかせるような季節になりました。

本来なら、明るい春の到来に心弾む頃ですが、今年は、コロナウイルス感染防止の影響で、学校閉鎖、各種イベントの中止・延期・・・等など様々な方面に影響が出ています。

大切な思い出の1ページになる卒業式や入園・入学式もできないのは寂しいですね。

楽しみにしていたお花見も、今年は少し様子が違ってきそうです。



この状況が長引けば、日々の生活はもとより、経済面まで広く脅かされるのでは？との不安が募ります。

当分は、心身ともに窮屈な生活を強いられますが、命が一番。健康管理を第一に、この大変な時期をみんなで一緒に乗り越えましょう。どうぞお元気でお過ごしください！

## 失敗事例から学ぶ家づくり成功の秘けつ！（16）

新たなテーマとして、家づくりの際に注意すべき大切なポイントを書かせていただいています。ご参考にできれば幸いです。

### 【クロスにヒビがはいった、床なりがする・・・】

クロスのヒビ割れや床なりなども、よく生じる家屋のトラブルのひとつです。

ヒビ割れは、クロスとクロスのジョイント部に生じることが少なくありません。

ひどい時には、下地材の

石膏ボードが割れてしまいます。



ヒビ割れの原因のひとつとして、暖房などにより空気が乾燥すると、柱などの木材が収縮してクロスにヒビが入ることがあります。

けれど、自然素材を使った場合には、調湿性能が高いため、クロス以上に顕著にヒビ割れは現れません。

実際に暮らしている家を見るなどして、どのくらいのヒビ割れになるのか確かめておくといいでしょう。

また、床なりがひどい場合には、木材（根太など）に含まれている水分量が異常に多い湿潤状態か、残念ながら大工の施工が悪いところに原因があるのかもしれない。

しかし、木造住宅でも、鉄骨住宅にしても、多少の床なりが生じる可能性はあるのです。

その原因は、クロス等のヒビ割れ

と同様に木材の収縮ですが、木材

は生き物ですので、厳密には止めることができないのです。

ほとんどの会社で、鋼製束や調整可能な束が使用されていますが、これは、建物がある程度落ち着くまでは床なりが起きてしまうので、それを調整するためなのです。



次回に続く

### 「蝶の縁起」

「蝶」は、世界中に広く分布し、その種類は知られているものだけで約17,600種といわれています。日本では約260種が知られており、日本で最初に発見された「オオムラサキ」は日本の国蝶とされています。

春になると身近に見られる蝶ですが、ギリシャ神話や中国の故事、仏教やキリスト教の教えの中にも登場し、洋の東西を問わず、幼虫からサナギを経て成虫となるその劇的な変化により、輪廻転生や復活、長寿などの象徴とされてきました。

更に、蝶のイメージは美しく軽やかなので、美しさやめでたさの象徴にもなっており、花を慕う蝶は、愛情あふれる円満な夫婦に例えられています。

又、壮子の「胡蝶の夢」は有名な故事です。

壮子が蝶になった夢を見たが、本当の私は蝶で、いま人間になっている夢を見ているだけではないかという話です。夢と現（うつ）がはっきり

区別できないこと、

転じて人生の儚さの例えとされています。



## 送別会の思い出



3月は、卒園・卒業、転勤などで寂しい別れの季節とも言われます。

皆さんも、そんな体験をお持ちかもしれません。

今回は、他校へ転任することになった先生とのお別れ会に纏わる感動的な思い出を聞かせていただきましたので、ご披露させていただきます。

小学校の時、同じクラスに足し算・引き算がちょっと苦手、会話のテンポが他の子より少し遅いA君という子がいました。

でも、彼は絵がとても上手でした。

彼は、昼休みや放課後に、よく空の絵を描いていましたが、抜けるように美しいその色遣いには、子ども心に驚いたものです。

当時、担任だったN先生は、算数の授業中、解けないと判っているのに答えをA君に聞いた。

彼は、冷や汗をかきながらも、自分の指を使って、ええと、ええと・・・と必死に答えようとするのだけれど、なかなか正解が出てこない・・・???

周りの子ども達はその姿を見て笑っていた。

N先生は、正解が出るまで、しつこく何度も何度もA君に答えを言わせて。



ひどいよ！

私は、そんなN先生が大嫌いだった。

その後、クラスもいつしか替わり、私たちが小学校6年生になる前、N先生は違う学校へ転任することになったのです。

そこで、全校集会で先生のお別れ会をすることが決まりました。そしてその時に、全校代表でお別れの言葉を述べる人が必要になりました。

誰がするのか？の話し合いの中、

「先生に一番世話を焼かせたのはA君なのだから、A君が言えればいい」と言い出したおバカさんがいた。その子は、お別れ会で一人立たされ緊張してどもるA君の姿を期待したのです。

みんなで相談の結果、結局A君がすることに決まりましたが、私は、内心ハラハラ・ドキドキ・・・でも、当日の彼は本当に立派でした。

「水彩絵の具の色の使い方を教えてくれたこと」「放課後に、つきっきりで、そろばんの勉強を教えてくれたこと」

「僕を、普通の子と一緒に勉強させてくれて本当にありがとうございました」



A君の感謝の言葉は、10分以上にも及ぶものでしたが、その間、お喋りをする生徒は誰ひとりいませんでした

ただ、N先生がブルブル震えながら、嗚咽をこらえる声が静かな体育館に響いただけでした。

すごいよA君！！

私は、A君の言葉を決して忘れません。

### 「編集後記」

連日報道されるコロナウイルス関連のニュース。

一体いつになったら収束するのか、とても気掛かりです。

9年前の3月、未曾有といわれた東日本大震災が発生し、食料やトイレットペーパーの買い占めが問題になりましたが、あの時と同様、現在はマスク、ティッシュペーパー、トイレットペーパー等が品切れになり、大騒ぎになっています。あの際いろいろな場面で聞かれた「絆」という素晴らしい言葉は何処へいってしまったのでしょうか？

こんな時こそ、こんな時だからこそ、お互い様の気持ちで支え合いたいものだと思えます。

今月号もお読みいただき有難うございます。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。

ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子